

科目名	ケガの手当 1							年度	2025	
英語科目名	Medical treatment of the injury 1							学期	前期	
学科・学年	柔道整復科 2 年次		必／選	必	時間数	30	単位数	2	種別※	講義
担当教員	加藤健太、有山敦士		教員の実務経験		有	実務経験の職種		柔道整復師(接骨院にて勤務経験あり)		
【科目の目的】										
・骨折・脱臼・軟部組織損傷の発生機序を理解できる。										
・骨折・脱臼・軟部組織損傷の症状を理解し整復、固定ができる。										
・骨折・脱臼・軟部組織損傷の後療法を行うことができる。										
【科目の概要】										
軽症の応急手当についての知識を学びます。										
【到達目標】										
解剖学の知識を持って外傷の発生から治癒に向かう過程のメカニズムをしっかりと把握することを到達目標とする。また、この授業を元に自学自習の精神や姿勢を身につける事も目標とする。										
【授業の注意点】										
医療人としてのキャリア形成の観点から、授業中の私語や医療現場にふさわしくない受講態度、振る舞いなどには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。また、授業時間数の4分の3以上出席しないものは定期試験を受験することができない。										
評価基準＝ルーブリック										
ルーブリック 評価	レベル5 優れている	レベル4 よい	レベル3 ふつう	レベル2 あと少し	レベル1 要努力					
到達目標 A	解剖学を深く理解し、患者に対して説明ができる	解剖学を理解している	解剖学の主要部分のみ理解している	解剖学を理解していない	解剖学を理解する姿勢がない					
到達目標 B	外傷の発生機序を深く理解し、患者に対して説明ができる	外傷の発生機序を理解している	外傷の発生機序の主要部分のみ理解している	外傷の発生機序を理解していない	外傷の発生機序を理解する姿勢がない					
到達目標 C	外傷の症状を深く理解し、患者に対して説明ができる	外傷の症状を理解している	外傷の症状の主要部分のみ理解している	外傷の症状を理解していない	外傷の症状を理解する姿勢がない					
到達目標 D	外傷の整復法を深く理解し、患者に対して説明ができる	外傷の整復法を理解している	外傷の整復法の主要部分のみ理解している	外傷の整復法を理解していない	外傷の整復法を理解する姿勢がない					
到達目標 E	外傷の固定法を深く理解し、患者に対して説明ができる	外傷の固定法を理解している	外傷の固定法の主要部分のみ理解している	外傷の固定法を理解していない	外傷の固定法を理解する姿勢がない					
【教科書】										
教科書（柔道整復理論編一般社団法人全国柔道整復学校協会監修一）に準拠する。										
【参考資料】										
【成績の評価方法・評価基準】										
試験と課題を総合的に評価する。										
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。										

